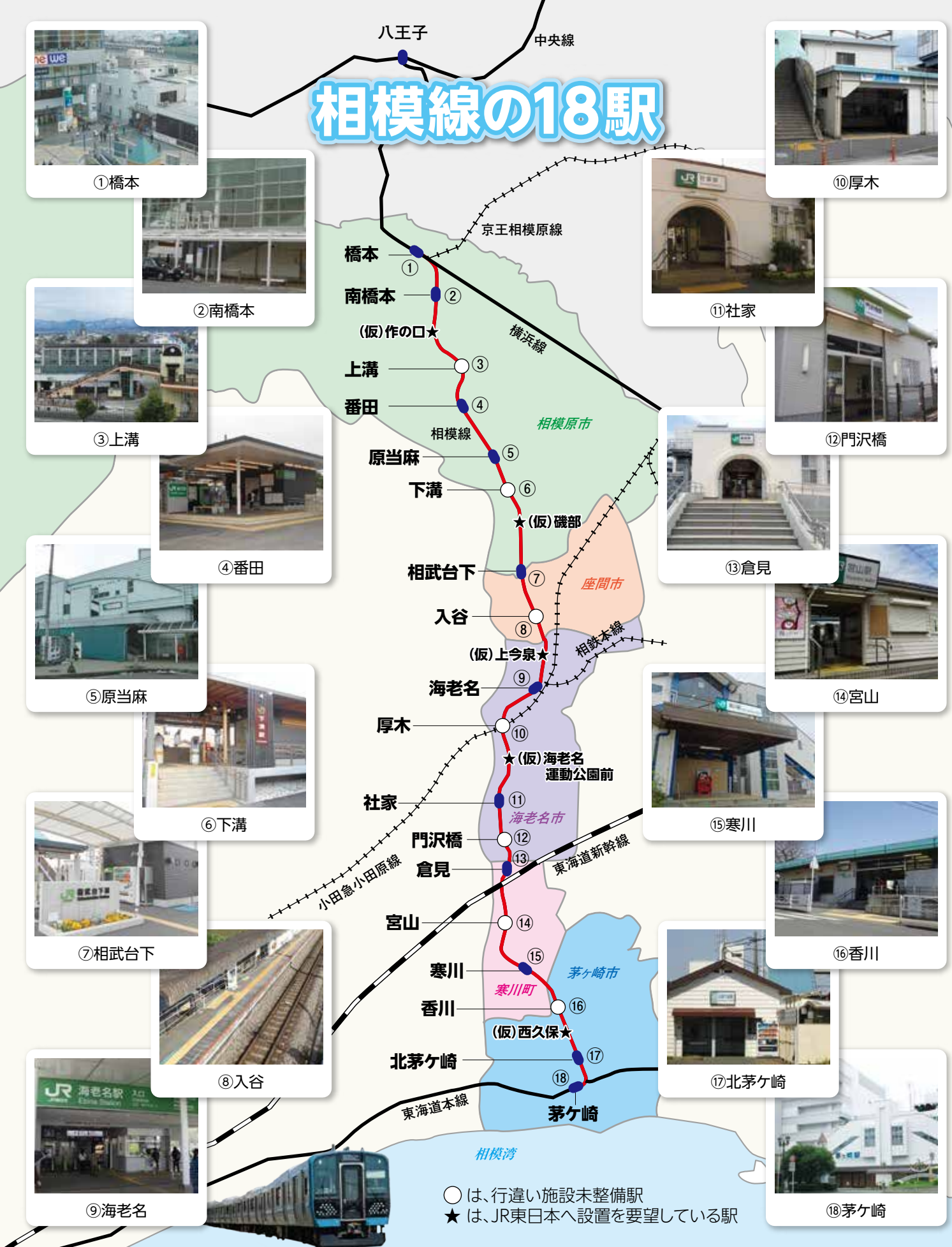


相模線の18駅



～相模線複線化の早期実現を目指して～

複線化 みんなの未来へ 夢のせて



えぼし岩(茅ヶ崎市)



海老名駅東口(海老名市)



橋本駅周辺(相模原市)



寒川神社(寒川町)



ひまわり畑(座間市)

お問い合わせ先 神奈川県交通企画課 045-210-6182(直) 海老名市都市計画課 046-235-9676(直)
茅ヶ崎市都市政策課 0467-82-1111(代) 座間市都市計画課 046-252-8289(直)
相模原市交通政策課 042-769-8249(直) 寒川町都市計画課 0467-74-1111(代)

相模線複線化等促進期成同盟会

神奈川県、相模原市、茅ヶ崎市、海老名市、座間市、寒川町、相模原商工会議所、茅ヶ崎商工会議所、海老名商工会議所、座間市商工会、寒川町商工会

相模線複線化等促進期成同盟会の活動内容については、同盟会ホームページをご覧ください。

<http://www.go-go-sagamisen.ecweb.jp/> GO!GO!相模線 検索



▶ 相模線の現状と複線化の必要性

東京都心から約50km圏に位置する相模線は、東海道本線や横浜線など東京や横浜方面に向かう5つの路線と接続する鉄道です。

相模線は、単線のため列車の行違いの待ち時間等により、表定速度が低く、運行本数も少ないなど、周辺の鉄道と比較して輸送サービス水準が低くなっています。

所要時間の短縮、運行本数の増加等による輸送サービスの向上を図り、沿線地域を活性化するためには、相模線の複線化が必要となっています。

- 区 間 茅ヶ崎～橋本 ● 営業キロ 33.3km
- 駅 数 18駅 ● 所要時間 約48～73分
- 表定速度 朝時間帯32.8km/時、日中時間帯35.1km/時
(横浜線 朝時間帯44.1km/時、日中時間帯52.2km/時)
- 運行本数 朝時間帯4本/時、日中時間帯3本/時



注) 行違い列車の待ち時間により所要時間は変動します。表定速度: 起点から終点までの距離を所要時間で割った数値。

▶ 相模線の歴史

- 1921(大正10)年 相模川で採取した砂利の輸送を行うため、「相模鉄道株式会社」が茅ヶ崎～寒川、寒川～川寒川(貨物線→のちに廃止)で開業
- 1922(大正11)年 寒川～四之宮(貨物船、のちに廃止)で開通
- 1926(大正15)年 寒川～倉見、倉見～厚木が開通
- 1931(昭和6)年 厚木～橋本が開通し、茅ヶ崎～橋本が全通
- 1944(昭和19)年 国が相模鉄道を買収(運輸通信省鉄道総局の管轄)
- 1949(昭和24)年 日本国有鉄道が発足
- 1987(昭和62)年 厚木～入谷間に海老名が開業
- 日本国有鉄道が民営化され、JR東日本に移管
- 1991(平成3)年 全線電化、八王子までの直通運転が復活
- 2021(令和3)年 開業100周年を迎える
- 2022(令和4)年 E131系電車500番台の営業運転を開始し、ワンマン運転化
- 八王子までの直通運転をとりやめ



▶ 同盟会の活動内容

平成10年2月、同盟会の前身である「相模線活性化促進協議会」を発展的に改組し、県、沿線市町、経済団体による「相模線複線化等促進期成同盟会」を結成。複線化の早期実現を目指し、次のような活動に取り組んでいます。

- 要望活動 (対JR東日本、国など)
- 調査研究活動 (相模線交通改善方策等の調査検討など)
- 啓発活動 (ホームページやTwitterによる情報発信、横断幕等の掲出など)



県央・湘南都市圏の 目指す姿のイメージ

相模線は、県央・湘南都市圏における「環境共生モデル都市圏」の形成にあたり、東海道新幹線新駅(南のゲート)とリニア中央新幹線駅(北のゲート)による、全国との交流連携の窓口となる南北のゲートを結ぶ相模連携軸に位置づけられています。

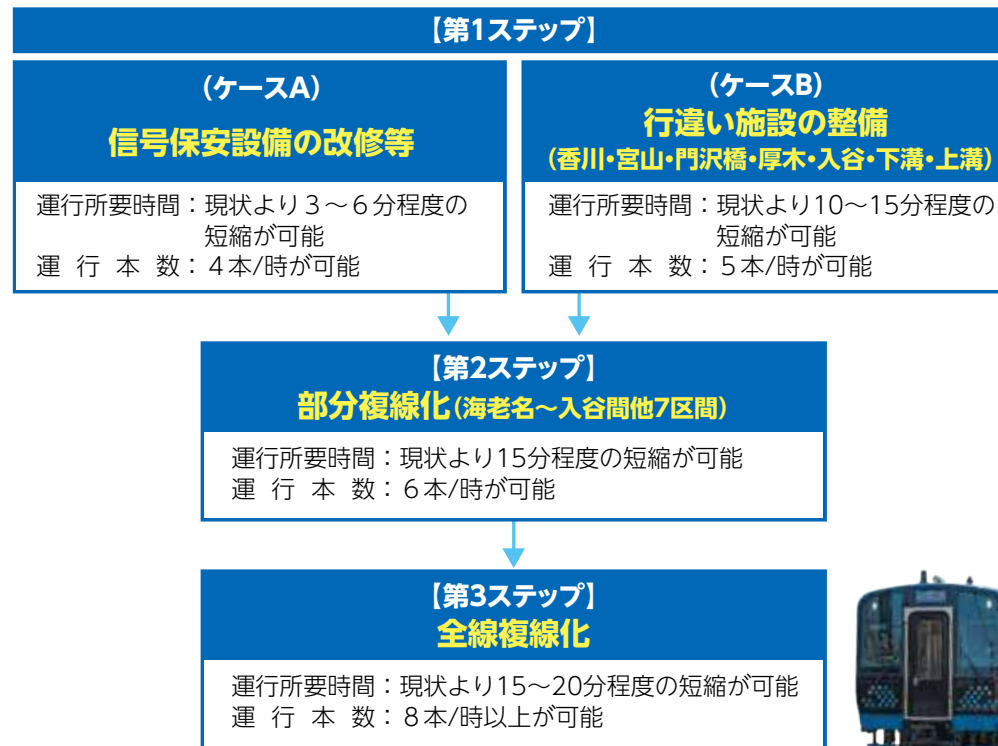


(出典: かながわ都市マスタープラン(令和3年3月改定)を基に作成)

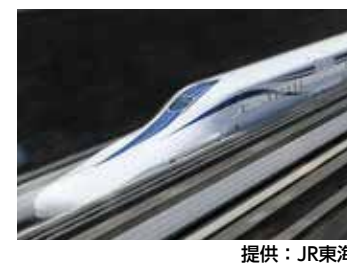
▶ 複線化に向けての段階的整備

複線化の実現に向け、行違い施設の整備や部分的な複線化などの段階的整備に取り組んでいきます。

〈段階的整備の流れ〉



〈出典: 新たな相模線交通改善プログラム〉



提供: JR東海

北のゲート(リニア中央新幹線駅)

現在、JR東海において、2027年の品川・名古屋間の開業に向け、県内の沿線各地で工事が順調に進められています。相模原市では、橋本駅付近に設置される「神奈川県駅(仮称)」を核とした広域交流拠点のまちづくりの取組が進められています。



南のゲート(東海道新幹線新駅)

寒川町倉見地区への新駅誘致及び同地区と相模川対岸の平塚市大神地区を一体として整備する環境共生モデル都市「ツインシティ」のまちづくりの取組が進められています。

なつかしの 相模線



乗車券
大正15年の茅ヶ崎～厚木間の乗車券

香川駅
昭和27年当時

〈熊澤藤俊氏所蔵〉

ディーゼーカー
昭和31年頃に活躍していた4枚窓のディーゼーカー

番田駅付近
列車本数が少なく、線路づたいに歩く乗客(昭和39年頃)

〈村多正氏所蔵〉

国鉄時代の厚木駅(貨物駅)
昭和46年当時

西寒川駅
日本国有鉄道時代の寒川支線(寒川～西寒川間1.5km)の終点駅で昭和59年に廃止

電化目前の相模線(入谷駅)
架線柱も建ち、電化工事が着々と進む中を相武台下駅に向けて発車する気動車(平成3年頃)